# 地方公務労働者の意識構造と労働者像 ②

## 自治労北海道本部 「組合員意識調査」の10年― 職場の人間関係

#### 本 龍 紀

囲気に係るものに限定して 事に関する調査項目のうち、 概要を紹介した。これに続く本稿では、 二一世紀に入ってからの一〇年六回の調査結果の が長く取り組んできた「組合員意識調査」 検討する 本誌二〇一三年四月号にて、 職場の人間関係・雰 組合員の意識変化を 自治労北海道 職場と仕 のうち、 本部

### 場の 人間関係・雰囲気の肯定的変化

になっていることを指摘した。ここでは、 が弱まり、 09 る相違があるかを見る。 向は組合員の諸属性 認調査にかけて職場における人間関係に係る不満 回紹介した調査結果の概要では、 その傾向は11調査においてさらに明確 (性別 年齢、 職種等)によ 05調査から その傾

との設問についてである 職場で 「自由に意見や希望を話せるか」 (07調査を除いて継続的

> 覧頂きたい。 形態のみ3調査) いくつかの属性による回答の変化を引調査 に問うてきた)。いささか分かりにくいのだが、 と11調査を比較した図表1をご (雇用

ないが、 役職、 とした割合が減少している。 職種別・雇用形態別)に関して、 はあれ、 た組合員の割合が著しく増加し、 ら11調査にかけて、全体的に「そう思う」 ここで取り上げたすべての属性 行政区分)のいずれについても、 全く同一の傾向を確認できる。 継続して調査してきた他の属性 図表1には示してい 「そう思わない 01 (性別·年代別 03 程度の差 (職務 調査か と答え

問わず、 場で働くようになったという、 な変化が生じている (少なくとも意識の上では) 性・年代・職種 北海道の自治労組合員はこの一〇年で、 ・役職・行政区分・雇用形態を より自由に話せる職 それ自体は肯定的

つぎに、 「仕事で気軽に協力できるか」との設

٢

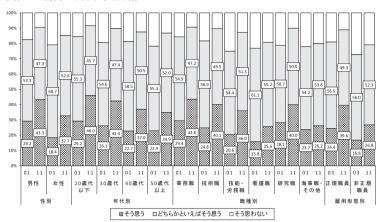
性を用いて示したのが図表2である。 問に対する回答の変化を、 図表1とは 部 [違う属

画 唯 を選んだ組合員 たといえる。 での協力関係においても肯定的変化が生まれてき 答も増えていることである。これを除けば、 きるようになったと感じるのが半数近くはいる半 気軽に協力できるとの認識が強まってきている。 職・行政区分・雇用形態を問わず、仕事において も同様の結果となっている。 示せなかった他の属性 て01調査から11調査の一○年間で、 職) ここでも、 協力できるようになったと思わないとする回 の例外的結果は、 すなわち、ここで示したすべての属性に関し にある組合員のうち、 先の回答結果と同様の傾向が の割合が増加している。 役職のうち課長補佐職 (職種別、 仕事で気軽に協 性・年代・職種・ 雇用形態別) 「そう思う」 示され 職場 労力で 相 で

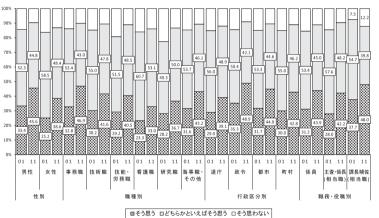
表3)。 頼され仕事もできるか」)について確認しよう 最後に、 管理職に対する信 頼 度 (「管理 職 は

による変化もまた同様であった。 いる。 つの属性を取り上げて、 合が増加し、 いるが、 この図では年代別、 自治労北海道本部の組合員はみなしている。 **「職はより信頼され仕事もできるようになった** 他の属性 先の二設問と同様に、 「そう思わない」 (性別、 職種別、 雇用形態別、 一〇年間の変化を示して の割合が減少して 職務・役職別 「そう思う」 この一〇年で、 行政区分別 の割 の三

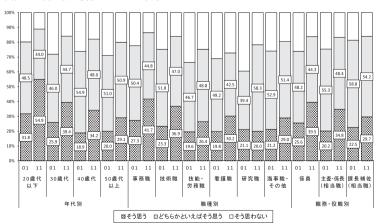
#### 図表1 自由に意見や希望を話せるか



図表2 仕事で気軽に協力できるか



図表3 管理職は信頼されており仕事もできるか



たち きな かき る。 1) 「安定帯 あっ たことがあるが Ō 0,1 か 2 たのかを、 ね 化する地方 が説 て私 おそらくは、 明 は 可 能 11 公務 な変化であろう。 ō 調 調 0) 查 職 査 時 0 場 間 か 期 0) 5 を働き続けた労働 0 コ と評 判断することは メントにお 地 方公務職場 させてい 13 ただだ で何 て 者

が は 賃金抑制· なくなっ 1) え、 これ てきたことを意味する カット、 6 の肯定的変化が、 人員抑制 削 わけ 職場で 減とそれ では 0 な 課

を進 され

定的

なす 調

きことであ

いることを

示す。

これ

いらは、

仕 改 ず 善

事

場

0 人間

関 0 け

係 П る

B

雰囲

気 が 答結

製は

63

n

る。

この変化は しめる上で肯 たと感じて 組合員たちは職 雰囲気に関する三設問

05 調 査

調査から な変化とみ

09

杳

0 Ñ

間

0

四

年

間

題

に生じ、

その後

ĺĺ

一でさらに深まっ

たもの

であ

1)

場の

見てきたように、

職

場に

お

間

関

.係

ま

6た職

これもまた仕

事を進

(める上では肯:

定的

な変化であ

ę

なら から を検討したい。 場 ベ よる てし ば ĉ 生 ル 0) じうるさまざまな不満・ 業 0) 管理 まう 個 務 光 々 量 八きな。 職と 可 0) 0) 能 労 増 働 ر ص 性 大等 課題 者 対峙という形で表出され は 低くな 0 0) 語ら が 自 厳 存 6 治 れ 不安 体 L ぬ 当 次 意識として潜 7 が、 回以降にこれ 13 局 対 る。 組 たとえば そ 合 な れ 本 在

膱

化

ŧ

V

<すぎもと たつのり

釧路短期大学教授